Providence

PEC-1

取扱説明書

2001.06 Ver1.01

このたびは、PROVIDENCE/PEC-1をお買い上げいただきまして、まことに有り難うございます。本機の性能をフルに発揮させ、末永くお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願いいたします。

目　　次

1. ご使用の前に
2. これがPROVIDENCE/PEC-1だ！(特長)
3. フロントパネル（各部の名称と働き）
4. リアパネル（各部の名称と働き）
5. ブロックダイヤグラム
6. 操作方法
   - 6-1. プログラム・モード
   - 6-2. リアル・モード
   - 6-3. コントロール端子について
7. ループについて
8. バッファについて
9. 接続例
10. パワーサプライについて
11. さらに音質を追い求めるプレーヤーの方へ

1. ご使用の前に

次のような場所でのご使用は、故障などの原因となりますのでご注意下さい。
●直射日光が当たる場所
●温度や湿度が極端に高い場所、または低い場所
●砂やホコリなどの多い場所
●過度な衝撃や振動の加わる場所

取り扱いについて
●スイッチやジャックに必要以上の力を加えないで下さい。
●アンプなどの電源をオンにした状態での、本機の電源のオン・オフは、アンプやスピーカーの故障の原因になりますのでお止め下さい。
●本機の電源を入れたままで、パワーサプライ（9V電源）につながるケーブルの抜き差しは、本機や接続されているエフェクターの故障の原因になりますのでお止め下さい。
●本機に水やジュースなどの水気をかけないでください。故障や火災の原因になります。
●電源をオンにした後、異常を発見した場合は故障の可能性がありますので、購入店もしくは、弊社にお問い合わせ下さい。

電源について
●本機はAC100V 50/60HZ仕様です。必ずAC100Vでご使用下さい。
●長時間ご使用にならない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜いて下さい。
●コンピューターなどの機器と同じコンセントから電源をとると、ノイズが混入する場合があります。
●タコ足配線などの無理な配線でのご使用は、音質劣化の原因となる事がありますのでご注意下さい。

2. これがPROVIDENCE/PEC-1だ!

■プリセット・プログラム
5つのループと、アンプ等のA／Bチャンネル切り替えの組み合わせが自由に選択でき、5つまでのプリセットが可能です。

■5ループ
エフェクターをつなぐループを5系統装備。4つでは足りないという多くのギタリストの要望にお応えしました。

■ステレオ対応ループ
5番目のループはステレオ対応。コーラスやディレイ、リバーブはステレオで!というプレイヤーの要望を実現しました。
また、このループにモノラルのエフェクターを接続する場合、接続方法によりモノラルのパラレル・アウトもできます。

■チューナー・アウト
従来の製品はミュートしてからではないとチューナー・アウトしませんでしたが、PEC-1は常に出力できるチューナー・アウトを装備しています。

■ミュート
ステレオ対応ループ（ループ5）の手前にミュート機能を装備。チューニング時の音をミュートしたい場合にも便利です。
この機能によりループ5にディレイをつないだ場合でも、ミュートした時にディレイ音が切れてしまう事はありません。

■デュアル・モード
リアルモード／プログラムモードの2つのモード機能を装備。リアルモードは、スイッチ一つ一つが対応するペダルエフェクターをON／OFFします。プログラムモードは、ディップスイッチによってプリセットされたプログラムを呼び出します。

■バッファ機能
バッファIN／OUTを装備。これにより、バッファのかかった信号をPEC-1のループに通す事や、PEC-1のアウトから出力した信号にバッファをかける事ができます。

■ウルトラクリーン9VDC電源
ウルトラクリーン9V DC電源を装備。ノイズの極めて少ないクリーンな電源をコンパクトエフェクター5個まで供給する事ができます。

3. フロントパネル（各部の名称と働き）

① PGM/L1 スイッチ
プログラム・モード時、このスイッチを押すと、プログラム1にプリセットされたループが作動します。
リアル・モード時は、このスイッチを押すと、LOOP 1が作動します。

② PGM/L2 スイッチ
プログラム・モード時、このスイッチを押すと、プログラム2にプリセットされたループが作動します。
リアル・モード時は、このスイッチを押すと、LOOP 2が作動します。

③ PGM/L3 スイッチ
プログラム・モード時、このスイッチを押すと、プログラム3にプリセットされたループが作動します。
リアル・モード時は、このスイッチを押すと、LOOP 3が作動します。

④ PGM/L4 スイッチ
プログラム・モード時、このスイッチを押すと、プログラム4にプリセットされたループが作動します。
リアル・モード時は、このスイッチを押すと、LOOP 4が作動します。

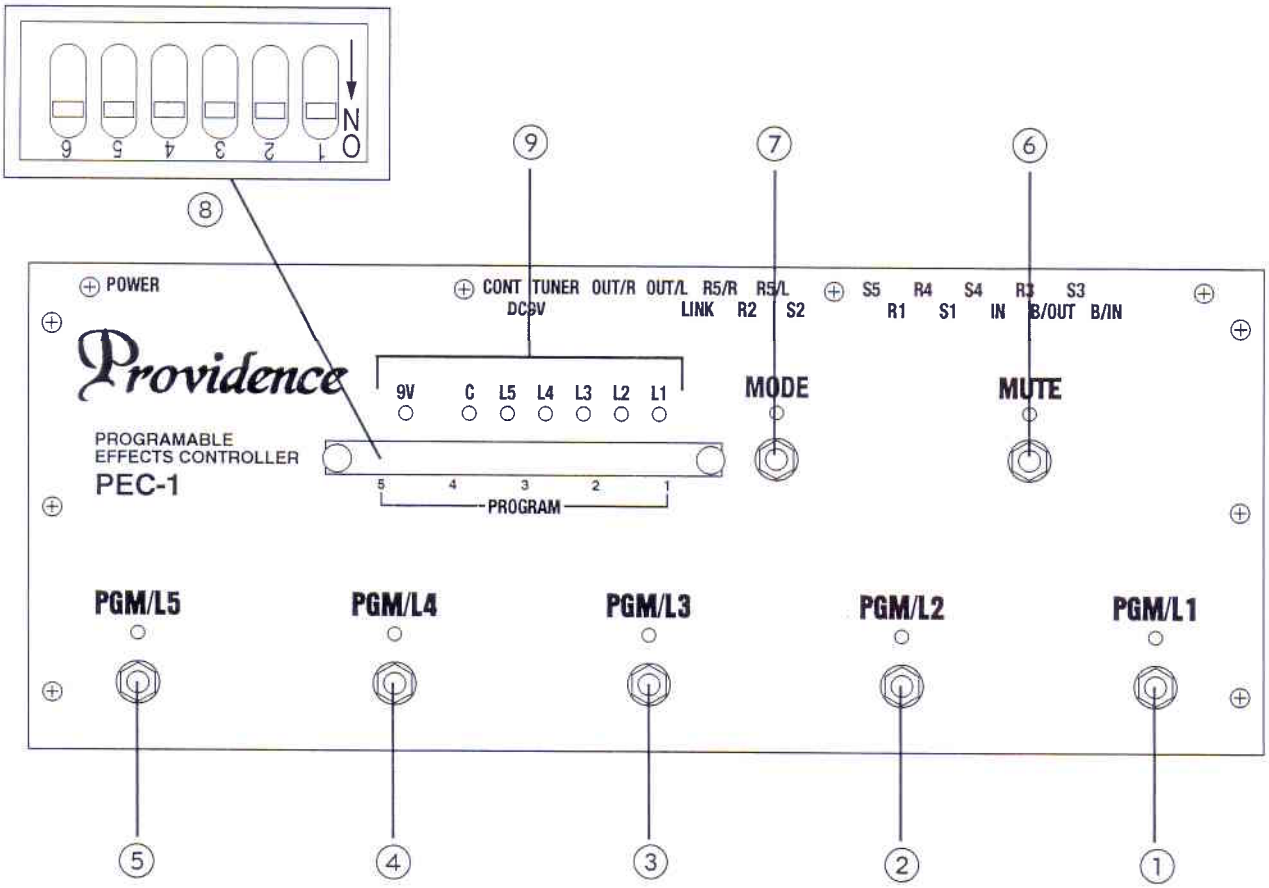
⑤ PGM/L5 スイッチ
プログラム・モード時、このスイッチを押すと、プログラム5にプリセットされたループが作動します。
リアル・モード時は、このスイッチを押すと、LOOP 5が作動します。

⑥ MUTEスイッチ
このスイッチを押すと、入力された信号をミュートします。このミュートスイッチはLOOP 4とLOOP 5の間に配置されており、LOOP 5にディレイがつながれている場合、ミュートスイッチを押してもディレイ音は残ります。

⑦ MODEスイッチ
プログラム・モードとリアル・モードを切り替えるスイッチです。LEDが赤の時はプログラム・モードで、緑の時は、リアルモードです。

⑧ PROGRAM PRESETスイッチ
このディップ・スイッチを設定し、各1～5のプログラムをプリセットします。

⑨ 動作確認用LED
各ループ、コントロール、パワーサプライが正常に動作している場合は赤いLEDが点灯します。各ループ、コントロールに関しては、リレーが動作したときにLEDが点灯します。



4. リアパネル（各部の名称と働き）

①B／INPUT
バッファ・インプット用入力ジャックです。このインプットに信号を入力すると、バッファ・アウトからノーマル・インプットジャック→ループ回路へと流れます。ノーマル・インプットに、ジャックが差し込まれると、信号は切断されます。

②B／OUT
バッファ・アウト用出力ジャックです。

③IN
バッファを使用しない場合のノーマル・インプットです。この時、バッファ回路は単独で使用できます。

④S1～S5
各ループのセンドジャックです。

⑤R1～R4、R5／L、R
各ループのリターンジャックです。R5はステレオ対応になっています。モノで使用する際、R5／Lにエフェクターからのアウトプットをつなぐと、アウトプットジャックののL／Rからパラで同じ信号が取り出せます。

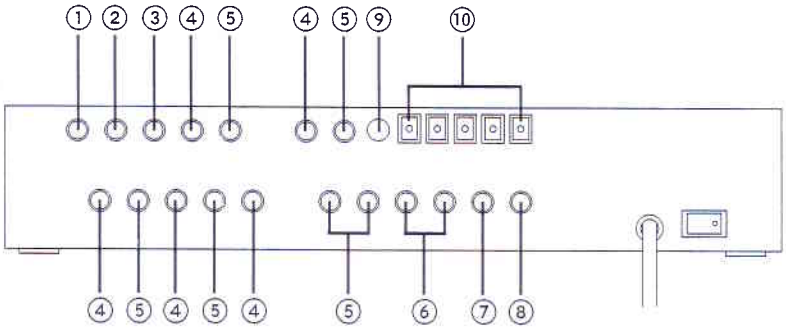
⑥OUT／L、R
アウトプットジャックです。

⑦TUNER
チューナーアウトです。常時、入力された信号が出力されます。

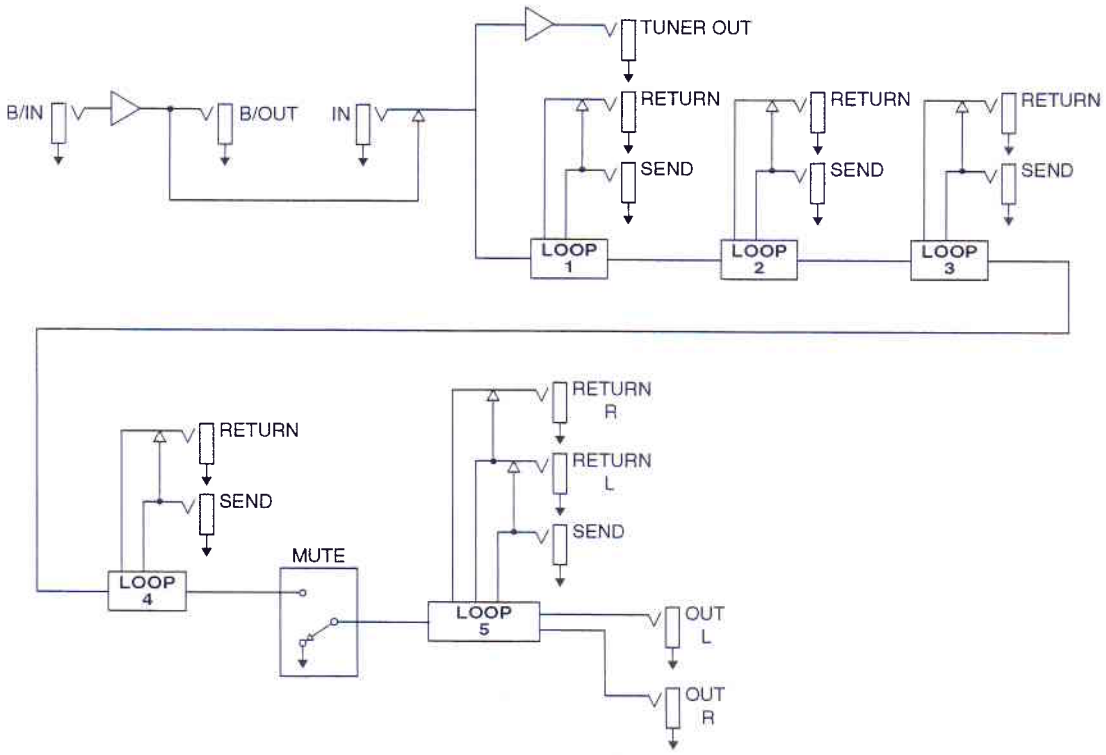
⑧CONT
アンプなどのチャンネルを切り替えるための、コントロール用端子です。

⑨LINK端子
PEC-1を外部制御するためのMINI DIN 8ピンの端子です。

⑩9V電源端子
9VDC電源を5つまで供給できます。
（最大300mAまで）



5. ブロック・ダイアグラム



6. 操作方法

PEC-1はプログラム・モードとリアル・モードの2つのモードを持っています。

6－1. プログラム・モード（LED赤に点灯）

このモードはあらかじめ、ディップスイッチでプログラムをプリセットし、操作するモードです。ディップスイッチは、右から1、2、3、4、5と、PGM／L 1～5スイッチと対応して並んでいます。
ディップスイッチは下におろすと、プリセットがオンの状態になります。
例えば、PGM／L1スイッチを押した時、ループの1、2、4をオンしたい場合、PROGRAM 1 のディップスイッチの1、2、4を下側におろします。このモード時、コントロール端子をプリセットする事ができます。

6－2. リアル・モード（LED緑に点灯）

このモードは、エフェクターを順につなぎ、それら単体をオン・オフしているのと同じ状態を作り出すモードです。
PGM／L 1～5スイッチは、各ループに1対1で対応していています。
例えば、LOOP 1、3、5をオンしたい場合は、PGM／L 1、3、5スイッチをそれぞれ押してオンにします。このモード時、フロントパネルからの操作でコントロール端子を動作させる事はできません。
また、リンク端子にオプションをつなげる事によって、外部スイッチにより動作させる事が可能になります。

6－3. コントロール端子について

コントロール端子は、アンプ等のチャンネル切り替えに使用します。
プログラムモード時、ディップスイッチの6番目のノブを下におろす事によって、このコントロール端子を使用します。
コントロール端子用のリレーが働いているときは、フロントパネル上の“C”LEDが赤く点灯します。接続にはモノラルの標準プラグをご使用下さい。
アンプ等のチャンネル・スイッチング回路には、リレーを使用して切り替えるタイプと、トランジスタやFET、ICなど半導体を使用したタイプのものがあります。PEC-1は、両方に対応できるように、リレーを使用しています。
リレーがオン（コントロール動作時）の時、アンプのチャンネルがどれになるかは、各アンプによって異なりますので、ご確認の上ご使用下さい。

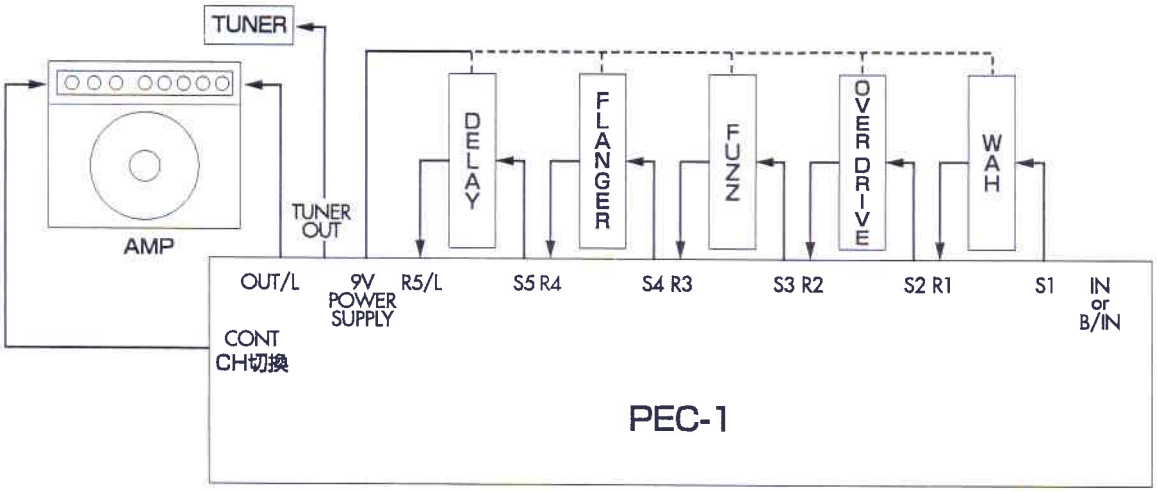
7. ループについて

PEC-1のループはセンド側、リターン側共にスイッチングするように設計されています。従ってオンされていないループは完全に切り離されます。LOOP 5はセンドはモノ、リターンがステレオになっていますので、ディレイやリバーブ、コーラス等のステレオ出力のエフェクターを接続できます。アウトプットもステレオ対応になっていますので、アンプを2台使用しての、ステレオ空間を演出できます。

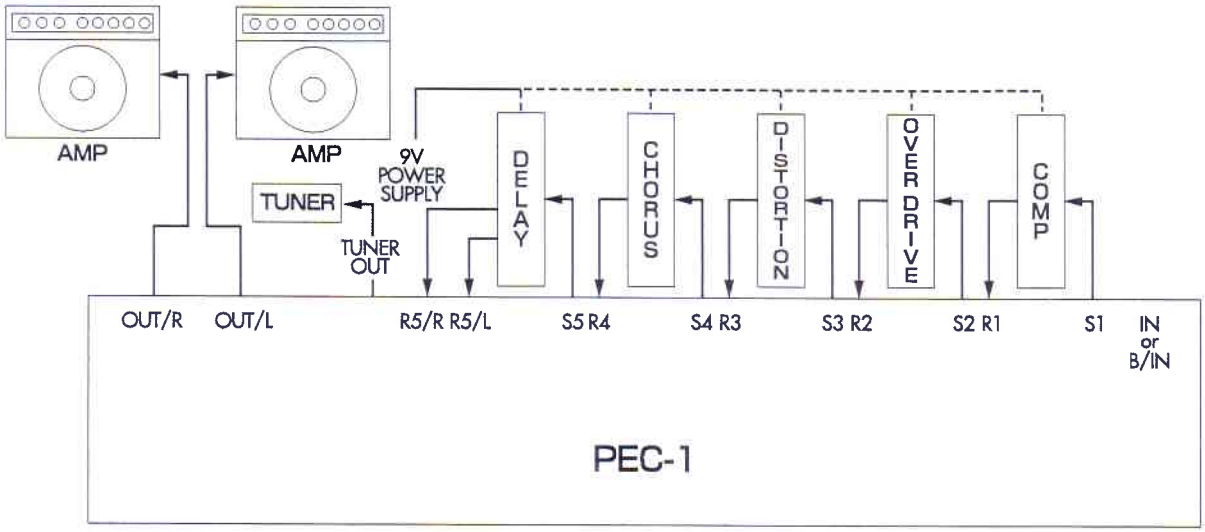
8. バッファについて

PEC-1のバッファ回路は、何度も何度も試作を繰り返し、音質検討を重ねて作り出されました。まずバッファの音質を楽しむ場合は、B／INに入力して下さい。これで信号はループ回路に接続されました。バッファをバイパスしたい場合は、プラグをB／INからINへ差し替えて下さい。この場合、バッファを単独で使用する事もできます。B/INをインプット、B/OUTをアウトプットとして使用します。

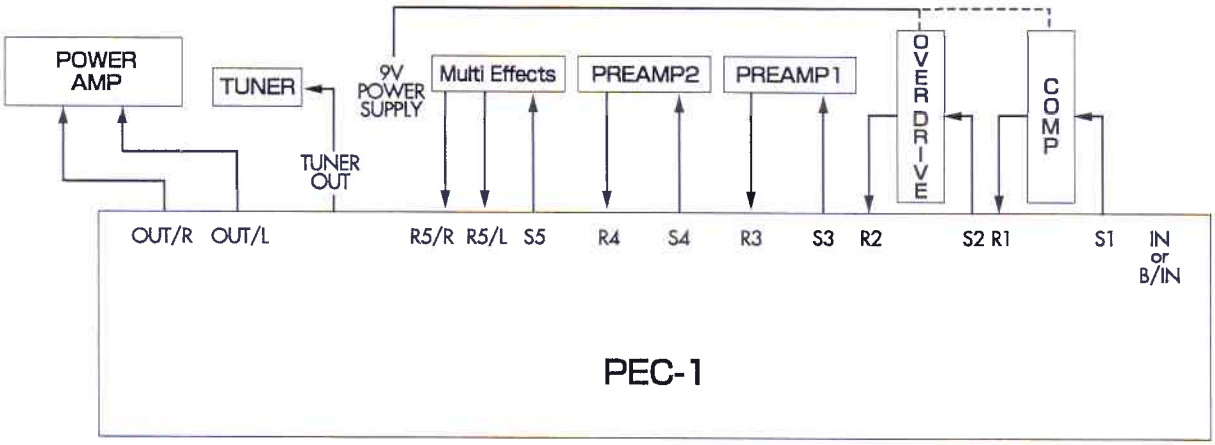
9. 接続例



（例1）アンプ1台で、最も多く使われるであろうセッティング。



（例2）アンプ2台で、ステレオ仕様の場合。ディレイをステレオにつなぎ、音像を広げるセッティング。



（例3）ラック式機材を併用した場合のセッティング（プリアンプの選択有り）。

10. パワーサプライについて

9V DC電源は最大300mAまで接続できます。合計の消費電流がこの値を超えないようにご注意下さい。消費電流は、各製品の取扱説明書をご覧下さい。パワーサプライの極性は、センターがマイナスですのでご注意下さい。

11. さらに音質を追い求めるプレーヤーの方へ

PEC-1は音質を徹底的に追及して製作されています。特に音の要となるリレーは、十数種類もの中から選ばれた物です。
一度、接続しているエフェクターを従来通り直列につないだ場合と、PEC-1につないだ場合とで比べてみて下さい。その差に驚く事でしょう。また、主にコンパクトエフェクターが採用している電子式スイッチが音質劣化を招くかがおわかりになると思います。FETやトランジスタなどを信号が通過すればするほど、原音は損なわれます。しかし、リレーを使用しているからといって、劣化がないわけではありません。ノイズを拾わないようにするためにシールディングを施すだけでも、高域の伸びや音の芯が変わってしまいます。こういった状況をさける為にバッファを使用し、信号のインピーダンスを下げるわけです。しかしこのバッファを通すだけで、音質が変化するのはご存じの通りです。
ケーブルを長く引き回す必要があるプレイヤーは、バッファ(B/IN)を使用してのPEC-1の使用をおすすめします。また、劣化した音の成分をアンプやエフェクターで補える場合は、バッファを使用せずにINに接続する事をおすすめします。
これまでの話は、"原音になるべく忠実に"という観点から述べています。PEC-1のバッファは、何度も何度も試作を繰り返し、音質検討を重ねて作り出されました。もちろんバッファの音質もハイクオリティです。バッファをエフェクターの1つと考え、音作りする事も可能です。

●仕　様

バッファ部：入力インピーダンス　1MΩ
　　最小負荷インピーダンス　600Ω
ル　ー　プ：4モノ・ループ、1ステレオ・ループ端子
　　標準モノジャック×18、MINI DIN ジャック×1
DC9V電源：MAX 300mA
消 費 電 力：5W（DC9V無負荷時）
電　　源：AC 100V　50／60 HZ
外 形 寸 法：390（W）×60（H）×160（D）／mm

※本機のジャック部に挿入するフォーンプラグは、メーカーによって形状の異なるものがあり、抜き差しの不完全なものや、接触が不十分なものがありますのでご注意ください。PEC-1にはLIVE WIRE製のケーブルをお奨めします。

オプション（別売）

LINK端子に接続するPEC-1用オプションセットは、接続アダプタボックスとケーブルから構成されます。MINI DIN8ピンケーブルで、PEC-1本体とアダプタボックスをつなぎ、アダプターボックスに、リモートスイッチ（コントロール用）や他のスイッチングユニットを接続します。

PACIFIX, LTD.
CABLE PRODUCT & SOUND RESEARCH
株式会社パシフィクス
企画営業部／〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央3-21-7 鶴見中央ビル1F
TEL.045-510-4060　FAX.045-510-4061